

# 植物防疫情報第2号

平成22年 5月 7日  
岡山県病虫害防除所  
岡山県植物防疫協会

## 岡山県南部を中心とした水稻のヒメトビウンカの防除の徹底について

近年、県南部においてヒメトビウンカが媒介するイネ縞葉枯病が散見されます。岡山県病虫害防除所による県予察圃場（赤磐市）でのヒメトビウンカのすくいとり調査では、4月中下旬の越冬世代成幼虫の発生量は43頭と平年（67.7頭）よりやや少なかったものの、イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率は16.7%であり、平成21年までの過去10年間（平成16～20年は欠測）の平均保毒虫率1.4%と比較して高くなっています。

広島地方気象台による4月30日発表の1か月予報では、向こう1か月の気温は高いと予想されており、ヒメトビウンカの増殖にやや好適な条件になると考えられますので、防除に万全を期してください。

### 1 防除対策

(1) イミダクロプリド剤（アドマイヤー箱粒剤など）、フィプロニル剤（プリンス粒剤など）、チアメトキサム剤（アクタラ箱粒剤など）などウンカ類に効果のある成分を含む殺虫剤を施用する。

なお、栽培方法（移植、乾田直播栽培など）に応じて、使用時期及び使用方法など農薬使用基準をよく確認して施用する。

(2) 移植栽培では、ヒメトビウンカの飛び込みを防止するため、麦類栽培圃場、雑草地近くなどでの育苗を避ける。

### 2 防除上の参考事項

(1) フィプロニル剤は魚毒性が強いので、施用にあたっては池や河川等へ流出しないように注意する。

(2) 今後の発生情報に留意し、必要に応じて追加防除を行う。

(3) 農薬の使用にあたっては農薬使用基準を厳守し、安全・適正に使用するとともに、人畜・水産動物への危害防止に努め、周辺農作物への飛散防止対策をとる。最新の農薬登録情報は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ（<http://www.acis.famic.go.jp/>）で確認できる。

(4) この情報は、農林水産総合センターホームページでも公開しています。

アドレスは、

[http://www1.pref.okayama.jp/soshiki/kakubu.html?sec\\_sec1=22](http://www1.pref.okayama.jp/soshiki/kakubu.html?sec_sec1=22)